

様式3 令和7年度 小金井市立小金井第四小学校 自己評価まとめ							
学校教育目標 人権尊重の精神を基本として、広く国際社会に生きる人間として、心身ともに健康で生涯を通して学び続けることのできる児童の育成を目指す。 つよく かしくく あたたく							
目指す学校像(ビジョン)							
【目指す学校像】 ○子供が「今日も登校してよかった」と実感できる学校 ○「チーム小金井四小」の力を集結し、主体的に課題を解決していく学校 ○保護者・地域に、「学校に足を運んでよかった」と思ってもらえる学校							
【目指す児童像】 ○心も体もたくましい子 ○よく考え実行する子 ○思いやりのある子							
【目指す教師像】 ○子供一人一人を大切にする教師 ○その子らしさを最大限伸ばす教師 ○一人一人に適切なかかわりをする教師 ○全体の奉仕者である教育公務員としての自覚と使命を果たす教師							
前年度までの学校経営上の成果と課題							
【成果】安心・安全な学校づくりについて、児童にアンケートを取り、教職員とCS委員で熟議を通して「言葉遣い」について共通した指導を行った。コミュニティ・スクールのリーフレットを作成し活動を広報することができた。							
【課題】生活指導面において、繰り返しの指導が徹底できていないことがある。授業改革を進めていく上で、ICT機器の有効活用や「個別最適な学び」「協働的な学び」を意識した実践となっていない。							
	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		成果と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
授業 変革 の 推進	・「授業改善推進プラン」を具現化した授業実践を全教員年間1回以上公開する。複数の教員で参観と振り返りを行い、授業改善に生かす。	3	4	1学期に全教員の授業公開は実施できた。7月に発表された全国学力・学習状況調査の結果を基に前年度の授業改善推進プランの振り返りを行った。94%の児童が授業が分かるかと答えているが、個別最適な学びに向けた学習者の自己決定のある授業改善を進めていく。	3	4	94%の児童が授業がよくわかると答えている。個々の教員が国語の校内研究を通して、個別最適な学び及び協働的な学びを実践し授業改善に努めている成果と捉える。今後も、授業改善プランの実践と振り返りを確実にを行い、次の学年の指導にいかしていくよう組織的に取り組んでいく。
	・デジタルコンテンツを共有した授業実践を学年間で共有し教材を蓄積する。 ・毎月1回夕会にて、デジタルコンテンツの評価と振り返りを行う。	3	2	デジタルコンテンツを活用した授業実践が進んでいる。授業での活用も進み昨年度と比較すると児童の肯定的な回答が10%増えている。今後もデジタルコンテンツの活用について情報共有を行い、評価と振り返りを行っていく。	3	2	児童の学習者用端末を利活用した学習機会が増え、児童のアンケートでは昨年度より15%増えている。12月に新しい学習者用端末に更新されたことで、さらに活用が進んでいる。また、授業での活用について教員間での情報共有も進んでいる。デジタルコンテンツや教員が作成したデジタル教材を有効活用していく。
子 ど も の 権 利 の 尊 重	・学期1回の教員研修において、「いじめ防止基本方針」、「小金井市子どもの権利に関する条例」を活用する。 ・教員も児童も、人権に配慮した丁寧な言葉遣いに努める。	3	2	児童は、子供の権利に関する条例があることを知らないと答えた児童が20%を超え、昨年度からの変化はない。言葉遣いにおいても昨年度からの変化はない。引き続き、小金井市子どもの権利に関する条例の話や、丁寧な言葉遣いについて指導を行っていく。	3	3	子どもの権利を知っている児童の割合は昨年度と変わらなかった。約20%の子供が知らないと答えている。小金井市の「子どもの権利の日」制定に合わせて、引き続き学級指導や全校朝会等で伝えていく。人権に配慮した言葉づかいについても昨年度と変わらなかった。引き続き「四小これだけは(言葉遣い)」を継続して振り返りを意識させる。
	・学期1回以上「いじめ防止・生命尊重」に関する授業を実施する。 ・相談シート、相談窓口等の相談体制を朝会や校内掲示等で周知する。	4	3	学期1回のいじめ防止授業は計画的に実施している。10%の児童が相談窓口を知らない事から、今後も校内掲示や朝会での周知を継続し、相談することの重要性を伝えていく。	4	3	学期1回のいじめ防止授業は全学級で実施することができた。また、相談シートや相談窓口の周知に努めることはできた。困った時の相談窓口を15%の児童が分からないと答えていることから、引き続き学級指導や掲示物等で周知していく。
地 域 と の 協 働 の 推 進	・地域コーディネーターと教職員との打ち合わせを定期的に行う。 ・活動後に振り返りを行い、持続可能な取組に改善していく。	3		・地域コーディネーターのおかげで、活動一つ一つに関わるスタッフや参加者が増えている。学校として広報活動を行っていきたい。 ・地域学校協働活動「小さな田んぼ」は、保護者の参加も多く、5年生の学習活動にも生かせる、持続可能な理想的な活動となっている。	3	3	地域コーディネーターによる発信が活発で、活動一つ一つに関わるスタッフや参加者が増えている。学校としても学校だよりや校内の掲示物で周知を行うことができた。持続可能な活動となっていきよう、地域コーディネーターと学校との打ち合わせを大切に、教員には地域の教育資源を生かした授業づくりのきっかけとしていく。
	・地域学校協働本部と連携して、子供の活動の充実と関わる方の満足度の視点で組織づくりを行う。	2		・地域未来塾「夏休みはやってみ四」は、場所の確保や広報活動等で学校ができる取組を行った。今年度は子供や支援者等の声から図書の貸し出しを可能にした。これからも子供の居場所づくりを地域コーディネーターと共にやっていく。	2	3	昨年度と同様に、地域未来塾「夏休みはやってみ四」を行うことができた。子供や支援者等の要望に応え、図書の貸し出しをスタッフの方に行っていただくことができた。これからも地域コーディネーターと共に子供たちの体験活動の充実や居場所づくりを進めていく。
特 色 あ る 学 校 づ く り	・校内研究で取り組む「四小学習スタイル」に沿った授業実践に取り組む。 ・生活指導では「四小これだけは」を決めて、毎月自己評価と振り返りを行う。	4	3	・全担任による授業公開は、2、3学期も進めていく。学習者が学習方法を選択して学習を深める、自立した学び手の育成をめざした授業実践を行う。 ・丁寧な言葉遣いをしていないと回答した児童が30%であることから「四小これだけは 言葉遣い」を継続して取り組む。道徳授業地区公開講座において話題にする。	4	3	学習指導、生活指導の基盤となる「四小スタイル」、「四小これだけは」を、全教職員で組織的に取り組んでいく事ができた。しかし、実践が浸透しているまでには至っていない。教職員で目標を共有して課題解決を進めながら、安心・安全な学校づくりに向けた「四小スタイル」、「四小これだけは」づくりを進めていく。
	・資源ごみ分別、ごみ削減など、児童の主体性を促す活動を継続する。 ・地域と連携した取組について継続と発信に努め、家庭での実践を促す。	3	3	・環境教育の取組について教員側の意識が高まっている。2学期以降に委員会や学級活動の中でハチドリプロジェクトの実践を進める。 ・落とし物が減らない。物を大切に、持ち物に名前を書く習慣を家庭と連携して実践していく。	3	3	児童の委員会活動において、環境保全を意識した取組ができている。しかしながら、児童の落とし物は減らない。記名や物の管理など家庭の協力を得ながら進めていく。また、ハチドリプロジェクトについての発信は十分にできなかった。児童の主体性を生かした活動を発信していく。
	・週1回の朝外遊び、休み時間の外遊びを推進し、運動習慣の定着を図る。 ・長縄チャレンジ、短縄週間、持久走週間において、目標達成に向けて努力する習慣を身に付けさせる。	3	3	・朝外遊びを楽しみにしている児童が昨年度より5%少なくなっている。熱中症対策を取りながら外遊びを励行し、運動習慣の定着に努める。 ・長縄チャレンジは、学級ごとに目標をもって取り組んでいる。引き続き体力向上の大切さを伝えて、目標達成に向けた励ましを行っていく。	3	3	外遊びや長縄チャレンジ等を楽しみにしている児童の割合は昨年度より微減であるが、80%以上の児童が肯定的な回答をしている。しかしながら、運動習慣として定着しているとはいえない。保健だよりや保健の授業等を通して、健康な体作りを伝えていく。
	・HPは週1回以上情報発信を行い、配布物等のHP掲載を進め、HP閲覧を推進する。 ・行事等の運営(案内、受付、アンケート)に、ICT機器を活用する。	3		・HPは栄養士が給食について毎日発信し、学校の様子についても毎週発信することで、HP閲覧が進んでいる。配布物は、まなびポケットで配信することで紙面配布を減らすことができた。 ・学校公開の受付とアンケート回収に、ICT機器を活用して効率化を図った。	4	4	栄養士が日々の給食を保護者に発信することで、子供たちの職に関する興味が高まっている。学校のホームページ閲覧が増えている。学校行事の受付、アンケートにおいて、ICT機器を有効活用した。今後はアンケートの項目を精査し回答しやすいフォームに改善していく。